

連載：原点

「悔しさをバネに」

鎌ヶ谷西高等学校 亀田 隆三郎

私と数学との出会いは小学校4年生の時までさかのぼります。当時、とある学習塾に通っていた私は算数の部分を全て学習し、中学数学にチャレンジしていました。しかし、中学数学では文字を多用し文章題も高度になってきます。その塾はその日のノルマが終わらないと帰れないシステムだったので文章題が解けなくて悔し涙を流したこともありました。

普通だったらそこで「数学なんて大嫌いだー!!」となるでしょうが、私はどうしても解けなかったことが悔しくてしょうがなかったので、過去の解けない問題の解き方を研究してノートにまとめることをしていました。今思えばそこが、私が教師を目指すことになったターニングポイントだったのかもしれませんが。

中学時代に高校数学を一通り学習した私は高校に入ると、数学の授業で目からウロコがポロポロ落ちるような内容ばかりで難しいながらも必死でついていきました。質問もたくさんして先生からは厄介な奴と思われていたかもしれませんが、徐々に数学の奥深さにはまった私はこの面白さを伝えようと思い教師への道を決心します。

大学で数学を専攻し教員免許も取って教員採用試験に臨みましたが、なかなか合格できませんでした。何度受けても2次試験で落とされていて「自分は教師にはなれないのか？」と半信半疑になった時期もありました。でも、そこで何もしないでただ時間を過ごすのも馬鹿みたいなので何か教師になった時に役立つスキルを身に付けておいた方がいいのではないかと考えたのです。

そこで、私は予備校の講師として数学の授業力を鍛えることにしました。どのように教えれば生徒に分かってもらえるか？生徒の学力アップをするためのコツは何か？保護者のニーズは何か？また、それに答えるにはどうしたらよいか？etc…。他の予備校とは違い、講師が生徒の学習・進路指導までしていたのでほとんど学校のサポートみたいな感じでした。だから7年間お世話になったこの予備校には今の教師としての基礎を教えてもらいました。

そして今、私は学校の教壇に立つことが出来ました。しかし、教師としての仕事はまだまだ未熟です。失敗することもたくさんあります。これからは担任を持つこともあるでしょうが、生徒一人ひとりを大切に教育活動をする、そして自分のクラスを旅立っていった子たちが社会の中で活躍し、立派な人間として成長していけるようにできれば…というのが私のこれからの目標です。